
とばみなとまちづくり市民協議会 デザイン及びコーディネート

まちづくり活動推進事業(協議会等支援)業務

平成18年 3月 24日



【日和山から、とばみなと、を望む】

報 告 書

【事業目標】

～市民と行政が協働で、今までの取り組みと整合性をとりながら、大きく

方向性を共有して、とばみなとまちづくりの成果を創って行こう～

【企画・進行管理】

NPO法人伊勢志摩NPOネットワークの会

会長 中村 元

担当 協働推進部会 部長 川村 透

■INDEX

【前文】 「鳥羽のまちづくりの課題」

【概要】 「とばみなとまちづくりって何？」

【成果】 「とばみなとまちづくりエリア別テーマ 成果」

【事業目的】 「行政、市民、NPO、共通の目的を持って」

【基本方針】 「約束と基本方針」

【対象】 「パートナーとオブザーバー」

【事業の構成】 「協働型会議の構成」

【運営体制】 「協働型会議の運営」

【協働型会議企画上の重要な留意点 その①】 「透明性と公開性の確保」

【協働型会議企画上の重要な留意点 その②】 「ルール／プロセス重視」

【事業の概要】 「議論のあらすじ テーマに練り上げるプロセス」

【総括】 「協働のしくみ及び、ビジョンの未成熟が課題」

【資料編】 会議開催リスト、事項書等基礎資料

【資料編】 HP に UP したライブレポート(簡易議事録)

【資料編】 第一回～第三回までの議事録

【資料編】 運営会議等 簡易議事録

■ 「はじめよう、もう一度みんなで作る、とばみなとまちづくり」

鳥羽の中心市街では、とばみなと、まちの玄関口から国道沿い、カモメの散歩道、駅前、日和山から岩崎、手づくり工房きらり、を経て妙慶川、大里、みなとまち文学館、本町、城山、それから中之郷、広野邸にかけて、まちづくりのさまざまな取り組みが動いています。ひとつひとつ、鳥羽の未来にとってかけがえのない大切な意義を持っているはず。けれども、最近気になりませんか？

「まちづくりの会議に呼ばれたんだけど、一体何の会議だっけ？何のために、どんな取り組みをやっている集りなんだっけ？何のためにここに呼ばれたの？ここで話したことをどうするの？」

とばみなとのまちづくりって、この頃ずいぶんわかりにくい。誤解や風説、思い込みもあるみたい。もう少し整理して風通しを良くするところからはじめなければ。

せっかくみなとを、まちを整備する計画もあるのに、マリンタウンだってもう一度考えなきゃ。今のままでいいの？鳥羽は国際観光都市、お客さまのための玄関口もっとキレイに気持ちよく、おもてなしをしたい。それなら取り組んでいる人たちもいるよ。え？ベクトル会議って何？快適空間 TOBA とどう違うの？まちづくり工房って何？いつのまに誰がアレを決めたの？現鳥羽小はどうなるの？日和山は？、城山はどうするの？

いっぱいエライ先生が来てくれているらしいけどよくわからない、取り組みがバラバラじゃない？とばっているんなセンセーにふりまわされていない？いやいやセンセーたちだってすごがんばってくれているんだよ、知らないだけさ？え？何がホントウなの？

聞こえてくるのは、噂や「ここだけの話」ばかり。僕ら市民も、やたらと多くてよくわからないまちづくり会議に何度も何度もひっぱりだされて、ふりまわされて、**まちに責任**

を持つの、もうやめようかな？

すこしまってよ。もう一度だけ、チャンスをください。

鳥羽は新しい市長のもと、「市民との対話」をキホンにまちづくりをしていく生まれ変わろうって言っているんだよ

そのためにまず、いろんな取り組みをしている人たちが月イチくらいで集まれる公式の場所が必要なんじゃないか？もう一度整理してみようよ。まちづくり交付金事業っていう、新しい枠組みがとっても「使える」らしいよ。だから今、

とばみなとのまちづくり、思いいれのある人たちが集まって鳥羽まちづくりのものがたりをふりかえるところから、うまくいっていなかったところをきちんと見つめなおすところから。不摂生をやめて、いい「生活習慣」をつくるように、「健康なまちづくり」を「責任ある対話」から一緒につくろう

もういちど落ち着いてゆっくりと、けれどゆるぎなく

さあ、

とばものがたりをはじめましょう。

【概要】 「とばみなとまちづくりって何？」

■ ■ TOPDOWN のまちづくりから「みんなが関わる」協働型のまちづくりへ



■ 夜明け前、二丁目まちづくりの頃

大里、本町の都市計画道路を巡り、二丁目の住人が自主的にまちづくりの会を立ち上げ

みんなで作るまちづくり、ビジョンづくりを試みた。協働という言葉もまだ一般的でない時代、鳥羽市との協働もボタンの掛け違いがあった。当時から伊勢志摩 NPO ネットワークの会は自主的に中間支援を試みていた。協働のまちづくりその夜明け前の尊い試みである。

■【協働って何?】特に「ハード」基盤整備を含む「公共事業」における協働の姿

- 1 価値観の違いを認める、目的を共有する、約束をする、プロセス重視、責任を持つ
- 2 現場の知恵を尊重する 実務者がテーブルにつく
- 3 徹底的に「優先順位」を議論しつづけることから練り上げられる
- 4 ただし大きな意思決定にはリーダーの感性、価値観、と専門家のノウハウが必要

■はじまりは、中心市街地活性化



- 1 まちの玄関口にぎわいをとりもどしたい
- 2 まちづくり工房が立ち上がり、手づくり工房きらり、ができたのが成果

■三重県からの投げかけをきっかけに、快適空間とベクトル会議

ともに伊勢志摩の観光価値を再生する試みのひとつ

【快適空間 TOBA】

→行動型、市民参画型の鳥羽の玄関口いい感じづくり

【ベクトル会議】

→ビジョン、専門家と代表市民が観光地鳥羽の「景観」を再生する

だからベクトル、方向性

■快適空間 TOBA って

<http://www.pref.mie.jp/jumins/hp/zigy/kuukan/kuukan.htm>

- 1 まちの玄関口をいい感じにしたい
- 2 歴史を学ぶ
- 3 妙慶川をキレイに
- 4 そうじ
- 5 橋をペンキで塗ったり
- 6 フォーラム開催
- 7 まちなみ水族館 への協力

■**快適空間 TOBA 事業例**



妙慶川 今と昔 写真展 郷土史家 中村真一さんと歴史を語ろう(手作り工房きらり)



妙慶川 小公園 手入れ



橋をペンキできれいにしてみよう



妙慶川に目を向けてもらうための体験型事業 水質は？ まち Walk ゴミ取り探検隊



まちなみ水族館

■カモメの散歩道

<http://www.pref.mie.jp/jumins/hp/zigy/toba-hodo/machi3.htm>



- 1 デザインと付加価値大、グッドデザイン賞
- 2 協働型公共事業 夜明け前のチャレンジ
- 3 官民協働のとばベクトル会議、専門家とともに、20回を超える検討会議
- 4 鳥羽商工会議所青年部が中心となって三回の市民公開ワークショップ
- 5 伊勢志摩 NPO ネットワークの会は青年部にファシリテーターを派遣して企画から支援
- 6 完成後、ベクトル会議メンバーが自主的に清掃をしている



第一回市民公開ワークショップ

「鳥羽みなとのプロムナードをステキにするにはどうしたらいいか？」



第二回市民公開ワークショップ(ノミナルプロセス)

「海辺のプロムナードをステキにするために大切な事って何だろう？」



デザイナーと模型を前にワークショップ、現地でイイ感じになるか原寸で確かめよう。

■ 鳥羽商工会議所の取り組み



エコミュージアム、観光ルネサンス事業など多岐に渡る取り組みが、みなとまちづくりのエリアで行われている。

■ ■ とばみなとまちづくり市民協議会ができたいきさつ

■ きっかけ

- 1 まちづくりの風通しを良くしたい。みなとまちづくりをひとつの場で。
- 2 鳥羽の玄関口を良くするための「基盤」づくりが必要
- 3 市民参加で専門家のノウハウを生かす、統一された公式の場所が必要
- 4 市民が無責任になってしまうのは「約束」ができにくいまちのしくみがあるからではないか？協働のしくみづくりを試みよう(NPOの会協働推進部会のミッション)
- 5 専門家のみなさんと市民の思いのずれをすり合わせ、力をあわせる場所が必要

■ とばみなとまちづくりの目的イメージ版

- 1 鳥羽の玄関口の基盤整備、まちづくり交付金事業をベースに
- 2 マリントウンと後背地、役割分けて
- 3 にぎわい、活気、歴史文化を大切に
- 4 今までの取り組みと整合性として
- 5 自然を生かした みなとまちづくり

■とばみなとまちづくりの範囲って？

にぎわいを取り戻したい鳥羽の中心市街地、とばみなと、まちの玄関口です。国道沿い、カモメの散歩道、駅前、日和山から岩崎、手づくり工房きらり、を経て妙慶川、大里、みなとまち文学館、本町、城山、それから中之郷、**広野邸**にかけて。市民協議会の議論によって若干の修正は可能です。





みなとまちづくりイメージ図

■みなとまちづくり、立ち上げた今年度の目標

今年、みんなで話し合う目標は、「大体これくらいの**大きなみなとまちづくりの方向性**」はまあまあ共有できるという**グランドデザインのひよこ**、をつくることです。

そのために、まちあるきでどうなっているのかを見て歩き、デザイナーの先生や歴史文化の先生の思いとともに**おおまかな「ゾーン」別**にどうなったらイイまちに、**活気があつてすてきなまちになるのかを、みんなの実感にもとづいた言葉にして共有する**ところからはじめよう。

そしてその**大切なことばたち=思いを育てていこう**ということです。

■みなとまちづくりの課題は何だ

- 1 時間がない。
- 2 まちづくり交付金事業、まちづくり列車は止まらない
- 3 どれだけみんなにかかわってもらえるか
- 4 どれだけみんなの「せめてもの」思いを載せられるか
- 5 5年間は続けます。鳥羽にとって最後のチャンスかも

■とばみなとまちづくり市民協議会の開催記録

第1回 H17.9.26 オリエンテーション

- ・ 今までの取組みと現状
- ・ 約束の共有と合意
- ・ 長期ビジョンを語ろうトーク Vol.1

第2回 H17.10.18 “まちづくりものがたり

～「まち交事業」を理解して、今までの取組みを振り返ろう～”

- ・ 大前提をしっかりしよう(再)
- ・ 早分かり「まち交事業」の全容
- ・ 三つの流れを大きく振り返ろう

第3回 H17.11.8 “まちづくりものがたり 2

～ひとりひとりの取組みを振り返ろう

良かったところ、課題のところ～”

- ・ 「まち交事業」関連あれこれ簡単に報告
- ・ ひとりひとりの取組みを振り返ろう
- ・ 「まち交事業」の実際とさしせまった課題

第4回 H17.11.27 “まちを歩いて振り返ろう

～鳥羽の玄関口、今どんな感じで仕上がりつつあるの?～”

- ・ まちを歩いて振り返ろう
- ・ まちの物語を聞いてみよう
- ・ まちの点検地図をつくろう

第5回 H18.1.18 とばみなとまちが良くなる理想像を描こう

- ・ とばみなとまちが良くなる理想像を描こう

第6回 H18.2.13 とばみなとまちこのエリアがこんな感じに仕上がれば最高よ

～テーマづくり～

- ・ とばみなとまちが良くなる理想像を描こう 2

第7回 H18.3.17 とばみなとまちが良くなる理想像を描こう 3

～エリアごとのテーマをみんなでまとめよう～

- ・ とばみなとまちが良くなる理想像を描こう 3

※各回協議会の内容(成果に至るプロセス)は後ほど述べます。

【成果】

「とばみなとまちづくりエリア別テーマ 成果」

■ 国道沿い 海を見る、感じるエリア ～海が体感できる～

■ マリンタウン 21 鳥羽ベイ エリア ～新しくて鳥羽らしい～

◇国道沿いエリアとマリンタウン 21 エリアはつながって、「鳥羽 BAY(ベイ)とよべるみなと」とか、新しいものとして、歴史と対比して考えよう。新しい海のエリア。

◇鳥羽は真珠のまちでもある。これまで真珠についての意見がなかったが、マリンタウンのタウンのシンボルとして取り上げよう。ただ、真珠のまちのイメージは具体的に描きにくく、どう具体化するかが難しい。

◇真珠のまちは鳥羽全体に通じるが、イメージがつくりにくい気がする。課題。

◇マリンタウンは、生活面とおもてなしの 2 面性がある。

◇鳥羽の産業である水産業のイメージがちょっとほしい。五感の部分ででも。

■ 駅周辺 海と歴史 物語のジャンクション ～海と歴史のイメージを切り替える～

◇スクランブル。海のイメージ・歴史のイメージを切り替えて、相互に行ったり来たり。

■ アンダーパス 場面を切り替える装置 ～過去と未来のタイムトンネル～

◇過去から未来、未来から過去へ切り替える装置の役割。舞台が変わる装置。

■ 妙慶川周辺 水のある風情 ～歩きたい きれいな川辺～

◇鳥羽の物語がわかる、きれいな川が大事。

◇夜も歩けるように明かりがほしい。風情のある。

■ 城山周辺 伝えたい海城 ～正しく伝える 本物で 鳥羽のオンリーワン～

◇鳥羽の歴史文化のつまった場所

◇行きやすい城山に

■ 岩崎あたり 食べ歩きを楽しむストリート ～食のエリア～

◇あいまいというか、漠然としていて、特色がない。昔からのイメージは、食べ物屋、土産物屋のならんだ観光客の楽しみのエリア。

◇イメージよりは、歩きたくなるというのが大事になる。

◇観光客に「干物を売っている店がないか」よく聞かれるが、魚屋さんは日曜日しまっている。

■ 本町・大里あたり 昼と夜 2 面性が魅力のエリア ～色のまち・門前町の風情～

◇やっぱり色のまち。それと常安寺、賀多神社などを中心にした歴史との 2 本柱。おごそかな部分とあやしい部分。

◇みなとまちと色のまちは切り離せない。はしりがね。

◇常安寺はすごいお寺。曹洞宗の総本山で三重県に外にはない。明治天皇も泊まっている。

■ 中之郷あたり 昔ながらの台所エリア ～昔みなとまちの台所 商人の町～

◇蔵があるというのは、昔の台所と結びつく。

◇武家屋敷があったということで、いいものがそろっていた。

◇歴史的なものと同所的なものとは、やはり中之郷は台所。商人のまち。

■ 生活商業全体 自分たちが好きになれるまち ～それぞれの良さを活かす～

◇各まちごとに特徴があるので、テーマを変に統一するのは無理がある。

◇自分たちのまちを好きになるというのは統一。

◇雰囲気良くておいしいものが食べられたら好きになっていく。

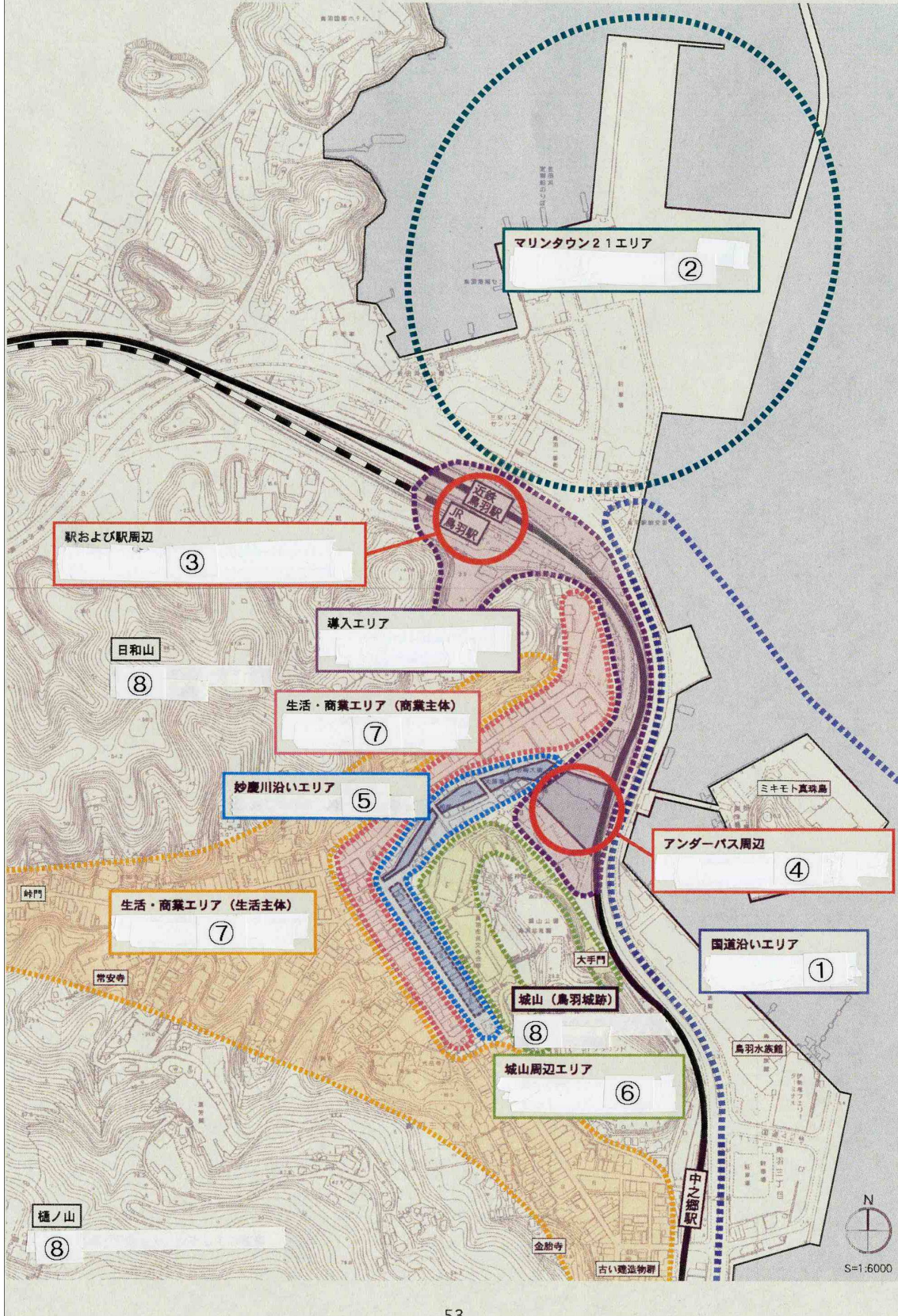
■ 丘陵地（鳥羽三山） 祈りの歴史と美しい眺望 三山エリア

◇御木本幸吉が別荘を建て、安藤広重が絵に描いた、やはり眺望が一番。それが基で何かが始まってくる。

◇祈りというイメージはあまりなかったが、それぞれに成田山、金刀比羅宮、大山祇神社と祈りの場所になっていた。金刀比羅宮の上には、昔白蛇の化身があらわれて鳥羽を治めてもらっていたという歴史もある。

◇ 日和山、歴史にもっと注目してよ。

■エリア設定と景観形成の方向性



【事業目的】「行政、市民、NPO、共通の目的を持って」

長期的には、

海陸交通の結節点であり、中心的観光施設の立地する「鳥羽の玄関口」、佐田浜から4丁目にかけての鳥羽駅周辺市街地の『まちづくり（基盤施設の整備等）プラン』をつくり、実現していこう。

具体的には、

プランの実現に向け、この地域の骨格となる基盤施設の整備を受け持つ「まちづくり交付金事業」が平成21年度までの5カ年計画としてスタートしており、その条件の範囲内で事業内容を検討する。

鳥羽マリンタウン21事業とその背後地の活用について、既成市街地との役割分担を考慮して、そのプランを検討する。

景観法の活用を視野に入れた、一体的な景観の方向性について検討する。

こんなプランにしていこう

- ・鳥羽の玄関口にふさわしいプラン
- ・まちの賑わいをとりもどし、活力と魅力を高め、生活者が誇りをもつことができる、また観光地として再生していくためのプラン
- ・地域の持つ歴史・文化・自然環境等の特性を活かしたプラン
- ・この地域において、これまでのさまざまな取り組みを風通しよく整理し直し、それらと整合性のとれたプラン

【基本方針】 「約束と基本方針」

みんなで話し合う基本方針

- ・美しい自然との調和をはかりつつ、先人から引き継いだ財産を次世代に引き継いでいくことを念頭におき、プランを検討する。
- ・参画した委員はすべて、それぞれの立場を超え、鳥羽のまちにとって何が一番良いかという視点に立って検討する。
- ・さまざまな主体が一同に会して、お互いの立場を認め合って連携し、協働のスタンスを尊重して検討する。
- ・ここで合意されたことを実現するために、みんなで後押ししよう。

- ・ まちづくりに関する必要な情報は個人情報等の制限のあるものを除き、すべて提供される。

鳥羽市が約束できること

- ・ とばみなとまちづくり市民協議会において合意された事項については最大限に尊重して取り上げます。
- ・ とばみなとまちづくり市民協議会において不必要と合意された事項は、プランに組み込みません。
- ・ 少なくとも五年間は継続し、まちづくり交付金事業により現場整備の成果を出していきます。

NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会の目的

- ★ 市民、行政、企業、が信頼関係を深め、協働のスタンスや仕組みが鳥羽にいきづくようなプロセスをともに創ってゆく。

(上記は、NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会のミッションを表現している。本事業は、「いわゆる業務委託」ではなく、鳥羽市とわれわれが、同じ目的を共有している対等なパートナーとして、資源を持ち寄り、役割を分担し、目標を明確にして取り組む「協働」事業なのである)

【対象】 「パートナーとオブザーバー」

とばみなとまちづくり市民協議会委員、同会議オブザーバー、鳥羽市民、鳥羽市職員

【事業の構成】 「協働型会議の構成」

とばみなとまちづくり市民協議会 協働型会議(ワークショップ)企画進行 7回
 同上座長副座長及実務者協働型会議(ワークショップ)企画進行 6回
 庁内ワーキング、まちづくり出前説明会等(随時)

※ワークショップ=参加者が、討論したり現場を見たりするなどの協働作業を通じて、前向きな意欲を引き出し、お互いの考えや立場の違いを学びあいながら、提案などをまとめる手法であり、その集まり(場)のこと。以下 WS と略記する。

【運営体制】 「協働型会議の運営」

- 1 鳥羽市役所 まちづくり課 を事務局とする。

- 2 NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会 川村 透をファシリテーターとする。
- 3 同上 森本かおりをレコーダーとする。
- 4 同上 その他メンバーを、会議運営のボランティアスタッフとする。
- 5 三重大学 助教授 浅野 聡 氏をアドバイザーとする。
- 6 ふりかえり協働コーディネーター、いせ市民活動センター長 浦田 氏の協力を得る
- 7 HP による情報公開、市民コメント受付、ブログ運営担当を 川村 透とする
- 8 鳥羽市役所 まちづくり課は、とばみなとまちづくりに関連があると想定された、鳥羽市役所内各課の実務者を横断的に、必要に応じて収集し、川村 透をファシリテーターとして、実務者 WSを開くものとする。
- 9 委員の中から、座長と副座長を推薦し、参加者の合意のもと以下のように決定した。座長は市民協議会を代表する「顔」の役目を果たすが、参加者同士は平等な市民であるというスタンスから、基本的にはやむを得ない場合を除き「単純多数決」による意思決定はしない、ゆえに、最終局面での特別な議決権などの権限はもたないものと考える。(ただし協議会において合意された事項においては、信頼関係に基づき対応等を座長に一任する場合はありうる)。また、協議会本会議の前に、座長副座長会議をまちづくり課で開き、NPO の会スタッフを交えて調整を取ることで、より市民の思いを生かし、目的にかなった議論と合意形成を計ることとした。

※座長、岩佐政徳さん、副座長 奥田 徹さん 世古 貢さん

※ファシリテーター=公正、中立の立場で議論を活性化させ、目的からずれることなく成果を出しやすくする進行役、議論の水先案内人。

※レコーダー=協働型会議において、議論の進行に合わせ、その要点を、壁に張った模造紙にわかりやすく記録し、参加者が会議の内容を共有しやすくする役目。

【協働型会議企画上の重要な留意点 その①】 「透明性と公開性の確保」

とばみなとまちづくり市民協議会では、委員の選定にあたり以下のように、出来る限りの公開性と公平性を担保した。

ただし、責任ある議論を展開するという見地から関係各位に相談し、各種団体からの推薦とアドバイザーの意見をもらった上で委員メンバーを鳥羽市まちづくり課が選ぶとともに、公募も行った。

1. とばみなとまちづくり市民協議会は、委員メンバー以外の方誰でも、自由に傍聴できる、ガラス張りの会議とした。

2. 中立の市民セクター(NPO の会)が、会議の進行役となる、**WS 形式**とした。
3. **ファシリテーター**(進行役)が恣意的な誘導を行わないように、**有識者のアドバイザー**(三重大学 助教授 浅野 聡 先生)を置き、WS の信頼性、中立性を担保した。
4. 途中経過をライブレポートとして**随時 HP(ブログ)**に公開するとともに、**鳥羽市まちづくり課**にも、公式 HP を設けていただいた。(まちづくり課が、随時会議資料を公開する予定)

■みなとまちづくりブログ

以下のブログにライブレポートを随時 UP しています。

<http://d.hatena.ne.jp/sukeru1227/>

【協働型会議企画上の重要な留意点 その②】「ルール／プロセス重視」

■ ルールとプログラム

協働型会議は、**公正なルール**によって運営されるべきである。ひとりひとはフラットな関係で、**真剣に成果を出すことにコミット**しなければならないが、同時に「楽しく」「有意義」に、心から、身体ごと参加できるように、**細心をこめた「参加のデザイン」**を心がけた。

参加者同士は**平等な市民**であるというスタンスから、基本的には**やむを得ない場合を除き「単純多数決」**による意思決定はしない。代わりに、**各会議の目標を明確化し、合意に至るプロセスと手法=プログラムを明らかにした。**

■ プロセス重視のスタンス

協働型会議は、プロセスがすべて、である。結果はむしろ、「従」である。参加者ひとりひとり異なった価値観のせめぎあいの中から、一步一步「成果」を築き上げる**過程=プロセスこそが本質**である。

■ WS って何？

1. WS は会議なんです
2. みんなが対等です
3. 楽しく有意義に参加しやすく工夫されている会議なんです
4. ファシリテーター (中立、議論の水先案内人) が進行します
5. 目的を決めて一步一步進んで行き後戻りをしません。

■ WS のルール (あたりまえのマナーを約束しよう)

1. 進行役(ファシリテーター)の指示に従ってください
2. 個人攻撃や、誹謗中傷をしないこと
3. 1 発言、1 分ルール
4. 参加者は対等の市民です。地位や立場、肩書きにとらわれすぎず参加しましょう
5. 他の参加者に肩書きを期待した発言を強要してはいけません。

【事業の概要】 「議論のあらすじ テーマに練り上げるプロセス」

以下に、みなとまちづくり市民協議会本会議と、会議が成果を实らせるプロセスの中で特に重要と考えられるワーキングのみをピックアップして、概要を記します。

■■はじめに ～動き出す、とばみなとまちづくり市民協議会

鳥羽市では、鳥羽の玄関口である鳥羽駅周辺（佐田浜から 4 丁目にかけて）の市街地の賑わいを取り戻そうと「まちづくり交付金事業」を活用して、公共・公益施設の整備等重点的な取り組みに着手したところです。また、国の調査でも空間の快適性に関する整備が遅れていると指摘されたことを受けて、県の事業として、快適空間 TOBA 部会や、とばベクトル会議などが活動しており、商工会議所においても市街地の活性化に向けて、活発に事業を展開しているところです。

これまで、そういった取り組みの情報などが集約される場がなく、風通しの悪い状態となってしまうことと、「まちづくり交付金事業」で整備する内容については、みなさんといっしょになって「鳥羽の玄関口」、「鳥羽の顔」の基盤づくりを進めていきたいと、とばみなとまちづくり市民協議会協議会を立ち上げました。

■■第一回「オリエンテーション」 平成 17 年 9 月 26 日

□～みなとまちづくりをはじめよう



公募や地域等からの推薦いただいた 27 名の方と、木田市長も出席し、これから始めていくにあたっての目的や約束、実現までのしくみなどの提案や、これまでの取り組みの概要などについて説明し、質問や意見をいただくとともに、「ここがへんだったよ！鳥羽のまちづくり」と題して、フリートークを行いました。

たくさんの意見をいただき、目的や約束、会の名称などについての合意までにはいたらず、次回への持ち越しとなりました。また座長を岩佐政徳さん、副座長を奥田 徹さ

んと世古 貢さんをお願いすることになりました。

■庁内ワーキング平成 17 年 10 月 3 日

- ・ 目的すら素直に共有してくれないのは、今までの「不摂生」と「不信」の積み重ねがあることを認めよう。
- ・ 根源的な問いかけ、まちづくり課は何のためにある？
- ・ まちづくり課の考えるまちづくりの定義とは？

まちの「都市基盤力」を UP することを通じて、ハード、ソフト双方の住民の自立的なまちづくりを促す(案)

まち交事業において、できる限り市民の思いと行動を生かして、よりよいハード整備(景観など)につなげてゆく

- ・ 参加者の多様な期待と、今まで積み重ねてきた市民の鳥羽市に対する幻滅にどう真摯に答えるか？

■庁内ワーキング平成 17 年 10 月 6 日



まち交事業って何？わかりやすくプレゼンしよう。

みんなで鳥羽の顔をつくりたい。

走り始めた電車で飛び乗ってもらうようなもの。

都市再生整備計画

官のまち交、民のルネサンス。

協働のプロセスを健康に。

まちづくりの範囲と定義、協議会の目的を明確に伝えよう。

■■第二回「まちづくりものがたり」 平成17年10月18日

□～「まち交事業」を理解して、今までの取り組みを振り返ろう～



前回の白熱したみんなの思いを振り返り、第2回の開催に向けて行った市内部でのワーキングや、座長・副座長との運営会議を通して練り上げた、会の目的や約束などについての再提案をし、岩崎通りなどですでに工事が始まっている「まちづくり交付金事業」の全容、とばみなどに関わる4つの取り組み、まちづくり工房、快適空間 TOBA、ベクトル会議、商工会議所の観光ルネサンスやエコミュージアム構想の概要について共有をはかりました。

最後に、今回提案した目的、約束などが合意され、会の名前も正式に決りました。三重大大学の浅野先生から今後に向けての言葉をいただきました。

今年、みんなで話し合う目標は、「大体これくらいの**大きなみなどまちづくりの方向性**」はまあまあ共有できるという**ランドデザインのひよこ**、をつくることです。

□とばみなどまちづくりの目的イメージ版

- 1 鳥羽の玄関口の基盤整備、まちづくり交付金事業をベースに
- 2 マリントウンと後背地、役割分けて
- 3 にぎわい、活気、歴史文化を大切に
- 4 今までの取り組みと整合性として
- 5 自然を生かした みなどまちづくり

■■第三回「まちづくりものがたり2」 平成17年11月8日

□～ひとりひとりの取り組みを振り返ろう、良かったところ、課題のところ～



今回は、みなとまちづくりの範囲（みなと～4丁目界限）で、自分が今まで取り組んできた、また関わった活動の良かったところ、課題のところ、こうしたらよかたなあという解決策について。また、これまでその範囲ではあまり関わっていないなあという人は、外から見てこうしたらもっとよくなったのではないのかな、という前向きな提案など、**アイデア出し**を中心に話し合いを進めました。自分たちの活動と、これまでの大きな柱の取り組みである**中心市街地活性化**や**空間快適**などの取り組みとの間には共通の思いがあるのではないかということから、出された意見を【**中心市街地活性化**】、【**こちよい空間・もてなし**】、【**ステキな景観**】、【**まちづくりのやり方・しくみ**】と4つの仮の仕分けボックスに分けて**整理**してみました。その中で、特に

★ 歴史文化や自然の活用

具体的に何が大切で、何を残していくのかということ、それが地域の人たちに認識されているのかということも含めて、作りあげていく必要がある。

★ カモメの散歩道

すぐにはお金儲けや集客につながらなくても、いいものをつくれれば、来た人が良い印象を持って帰ってもらえるような財産となる。また外の目（専門家）と中の目（市民）の両方の目を見て考えていくことが必要である。といった意見や、フリーな話し合いの中で、

★ 防災上の視点も取り入れよう

★ 日本全国歴史文化を活かしたまちづくりというなかで、鳥羽は鳥羽だけの良さを活かした、「オンリー1」のまちづくりをめざすべきである。

といった意見などが出されました。鳥羽だけの「オンリー1」って何でしょうか？

アドバイザーの浅野先生からの言葉として、

歴史文化は大切な「基本」であって、まちの基本に沿いつつ、鳥羽が生き残っていくために、基本にプラスする新しいものが何かを考えていく必要があるのです。鳥羽は「海や自然」が、「歴史文化」がありすぎて、オンリー1が乱立しており、それぞれの強い思い入れのために、かえってまとまりがなくなっているのではないかと

と聞いて眼からうるこ、でした。

■■第四回「まちを歩いて振り返ろうⅠ」 平成17年11月27日

□～鳥羽の玄関口、今どんな感じで仕上がりにつつあるの?～

みなとまちづくり、今どうなの？実際に点検してみようと、専門家を交えてまちを歩き、点検地図づくりを行ないました。さて本日は13:00、昼間からまち歩きです。ねらいは、鳥羽の玄関口にふさわしい「基盤」になっているかどうか？まずは同行していただく先生の「まちづくりの物語」を聞きました。デザイナーの西村先生は、人を驚かさず鬼のデザインから、日常に溶け込んだデザインへの発想の転換が大切と説き、歴史文化の矢野先生は、鳥羽のまちなみもこれ以上古き良き歴史的建造物が失われるととりかえしが見つからない、最後のチャンスだと説きます。まち全体の「歩く」物語が隠れているような鳥羽のまち、文化会館から神社経由で城山へ、景色はいいけどさえぎってるなあ、と言いつつ海城の物語に耳を傾けます。ここが大手門、水族館跡のテントで海城の掘を思いつつ、ミキモト方面へ、船たまりと、どうもしっくりこないポケットパークを尻目に、カモメの散歩道はさすがにいい感じです。TM21 とうまくつなげたいと話しながら、西村先生の話しを聞きます。

くろぐろとしたアンダーパス、線路をくぐって赤福前へ。モダンなマリンからレトロな歴史街道へと物語がきりかわる(はず)と照れ笑いしつつ、手づくり工房きりりへ、そこから妙慶川沿いに、見えない物語を想像しながら上流へと歩きます(やはり臭いが問題)、大里へと足を伸ばし、文学館でしばし時を過ごし、かえってきました。

わいわいとなごやかに、けれど真剣に、みんなでまちの点検地図づくり、写真をはりながらどんどん書き込んでいきました。



■■第五回「とばみなとまちが良くなる理想像を描こう」 平成18年1月18日

□とばみなとまちづくりの目的を実現するためには、ここをこうするのが理想よ！

前回のまち歩きを振り返り、「とばみなとまちが良くなる理想像を描こう」と、3つのグループに分かれて、場所（ゾーン）とセットで理想像のアイデア出しを行いました。まちを良くするアイディア、現状の気づき、具体策、テーマに近い言葉など、みんなの思いが出てきました。今回はとにかく、話しをはずませ、どんどん書き出していきました。次回からはいよいよこのテーマのたまごを暖めひよこにする作業にとりかかります。



■■第六回「とばみなとまちが良くなる理想像を描こう2」平成18年2月13日

□とばみなとまち、このエリアがこんな感じに仕上がれば最高よ～テーマづくり～



今回は、前回で出されたアイデアを、同じ3つのグループに分かれて、用意したエリア分けの箱に見出し（テーマ）をつけて仕分けしました。まちを良くする手法や具体策の中からテーマの候補になる言葉が練り上げられてきました。

終了予定の午後9時を過ぎても白熱した議論が続き、各グループで発表したあと、アドバイザーから所見をいただいて、予定時間を約1時間オーバーして終了しました。テーマのたまごがかえり、ひよこたちがひめきあっています。

■■第7回「とばみなとまちが良くなる理想像を描こう3」平成18年3月17日

□～エリアごとのテーマをみんなでもとめよう～

今回は議論の総まとめです。各エリアごとに、今までの取り組みを振り返ります。まちを探索して、歴史文化の話しを聞き、デザインと景観をちよっぴり学び、それからいっぱいみんなでも出したアイディアの中から大きなテーマと方向性を練り上げて共有しました。

前回の議論で練られた言葉たちを題材に、全体ワークショップを行いました。具体策の土台の上へ上へと木が伸びて「骨格テーマ」の花が咲く、そんな、重要度と思いをたばねてゆく「編集」のセッションでした。



テーマのたまご
がかえり、ひしめき
あっていた、ひよこ
たちのくちばしも、
しっかりとしてきま
りました。

結果、専門家が専門知識を駆使したビジョンと、まちのみんなが汗を流しながらねりあげてきた今回のみなとまちづくりのテーマづくりは、やはり大きな方向性としてはほぼ同じ理想を持っているんだな、というのが正直な感想でした。

生みの苦しみ、かつてのさまざまな誤解を乗り越え、落ち着くべきところに、落ち着いたのではない

いでしょうか？ この感じをみんなに伝えたいのです。

ただ、まだまだ課題はいっぱいです。ともあれ、この成果とプロセスをどれだけ広く伝えられるか？みなとまちづくりの物語にどれだけみんなの思いを、こぼさずに、けれども出来る限り「事業」の予定にあわせて載せていけるのか？が課題です。

■■(仮)大里ポケットパークを考えよう①、② 平成17年11月23日・12月21日

今年度工事を予定している(仮)大里ポケットパークは、市民協議会と並行して地元の意見を聞かせていただく場を設けて進めていきたいと、大里と本町の町内会に声をかけさせていただき、11月23日と12月21日に、大里老人クラブ「里の家」で話し合いました。



■■妙慶川遊歩道整備について考えよう① 平成18年3月10日

デザイナーの西村先生たちと、歴史文化の難波先生とともに、懸案である「妙慶川の遊歩道整備」についてたたき台を示しつつみんなの意見を持ち帰って次回のたたき台づくりをするための意見交換会でした。

みなとまちづくりの流れをふりかえり、市民協議会でのまちあるき、エリアごとのテーマづくりのいきさつを説明して、妙慶川に関する市民会議の思いを、デザイナーの先生が受け止めた上でスケッチをしてもらったものを題材に意見交換です。



■■妙慶川遊歩道整備について考えよう② 平成18年3月23日

妙慶川遊歩道整備を考える公開 WS は第二回目、今回は第一回の意見を受けて、もっと具体的に「模型」の形で皆さんにみてもらいました。前回の、川の歴史を大切に思う人たちの思いを生かしてほしいという投げかけから、まちづくり課と歴史の難波先生とである妙慶川の歴史にくわしく、本も出版された岩崎町の郷土史課 中村真一さんのところへ勉強に行った事も報告しました。



【総括】

「協働のしくみ及び、ビジョンの未成熟が課題」

NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会 協働推進部会 部長 川村 透

鳥羽市における大きな課題は、まちづくり、都市計画、土地利用に関わるビジョン、ランドデザインが、きちんと共有されていないこと、であった。

ビジョンの不在は、まちづくりにおいて、やむを得ず「場当たり」的な意思決定をせざるを得ない状況をつくりだす。まちのランドデザインの不在は、個々の、分野、団体別ビジョンの乱立を示している。その整合性をとるべき芯、地盤が脆弱なのである。この状況が、鳥羽というまちのすべての課題の根本にあると考えた。

さまざまな、システム上の、あるいはビジョン上の未成熟さは、ある意味、理不尽であるときえ言えるほど深刻な負担を、すべて「現場」へと押し付けがちになってしまう。そして現実問題として、現場には「協働をコーディネート」する技能も余裕も資源も、すべて不十分なのである。そして本来、行政、市民、というその課題の当事者とは別の立場、第三者的立場のセクターが「協働をコーディネート」する「通訳」として「異文化交流」の橋渡しをしなければ困難であると言える。市民の誠実と行政の誠実、それは「異質である」というところから始めなければ傷つけあう不幸を呼ぶ。それはデリケートな「参加のデザイン」によってしかクリアできない。「協働コーディネート」とは極めて「専門性」の高

い技術なのである。

何度でも繰り返し所見として、以下の言葉を届けたいと思う。

協働のまちづくりは、まちの漢方薬であり、健康法である。常日頃から心がけ、時間をかけてじっくりと信頼関係を築きながら、ゆっくりと、企画の根っこから共有していかねばならない。「協働」という言葉が、あまりにも**便利な魔法の言葉**になりすぎている。漢方薬を抗生物質のように使うのは無茶なのである。そして**漢方には漢方の処方がある**。無茶したら患者を殺す結果となる、10年かけて。漢方での失敗は急にはわからない。5年、10年かけて着実にまちの健康を奪うのだ。

最後に、それでもあきらめずにテーブルについていただいた全ての方に感謝と敬意を表したいと思う。そして、この尊い場所を勇気を持って設営していただいた、木田市長、まちづくり課の皆さん、ご多忙の中アドバイザーとして関わっていただきました浅野先生、ありがとうございました。これからはじまりなのです。

参考資料)

■NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会とは

<http://www.po-npo-n.com/>

NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会 (Powerful=力強くて、Positive=積極的で、Possible=可能性を信じる NPO の NETWORK、これを PONPON と略称する) は、伊勢志摩を NPO のいきづく地域にするために既存の市民団体、市民がスクラムを組み、新たな市民団体や責任ある市民を増やしていき、行政や企業と協働し、自立して快適で活力ある地域を創出する推進力をみんなで創ろうというネットワークである。

PONPON の活動は、事務局運営、広報誌 (伊勢志摩ぼんぼん通信) の発行、HP と ML の運営、主にメンバー対象の支援、研修、定例会などを通じた交流、情報交換、そしてミッションに合う協働事業の受託などである。最近の活動としては「伊勢市市民活動センター (仮称) 検討委員会」を通して提言をまとめ、センター運営のサポートが始まりつつある。「WS 派遣事業」としては、行政職員のための「協働」講座など多数、鈴鹿市主催「みんなをつなぐワークショップ」「NPO が元気な鳥羽をつくるワークショップ」「鳥羽市職員ファシリテーター研修」など。

参考論文)

■NPO のいきづくまちを目指して～協働の現場から

<http://www.po-npo-n.com/NPOreport/repo-sukeru.html>

寄稿 2004 夏季「地域政策・あすの三重」(企画編集 三重県 政策開発研修センター)